

マヤ南部周縁地域の土製建築の発展過程： エルサルバドル共和国サポティタン盆地 サン・アンドレス遺跡の調査から

Architectural Development of Earthen Architectures in Southeastern Maya Frontier:
San Andres, Zapotitan Valley, El Salvador

H30海人2

派遣先 56回アメリカニスタ国際会議（スペイン・サラマンカ市）
期 間 平成30年7月13日～平成30年7月19日（7日間）
申請者 名古屋大学 大学院人文学研究科 市 川 彰

海外における研究活動状況

研究目的

本発表の目的は、分科会「メソアメリカ文明における土製建築の伝統」で、申請者が2015年から調査を実施しているマヤ南部周縁地域のサン・アンドレス遺跡における土製建築の技術変遷とその社会的背景、さらに発掘調査に基づく先スペイン期土製建築の修復保存技術の実践例を報告することである。

海外における研究活動報告

新大陸を代表する古代文明のひとつであるメソアメリカ文明といえば、密林にそびえ立つ石製の神殿ピラミッド群が有名である。しかし、時空間的に広範に存在するのは石製建築群よりも土製建築群であることはあまり知られていない。なぜなら、体系的な調査例が極めて少ないからである。その理由は、大きく3点ある。①「土」という材質ゆえに、浸食が激しく、建築様式や技術について理解が不十分であるから、②理解が不十分なために石製建造物と比較すると修復保存技術が確立していないから、③「土＝文化的に洗練されていない」という偏

見があるから、である。

こうした状況を打開し、メソアメリカ文明の土製建築の伝統を再評価するべく今回の第56回アメリカニスタ国際会議にて分科会が立ち上がった。分科会で扱われた事例は、メキシコ中央高原、メキシコ湾岸、マヤ地域、オアハカ地域というように地理的に広範囲に及び、先古典期・古典期・後古典期（紀元前1800～紀元後1500年）という長期の時間軸のもとに報告がおこなわれた。このように時空間的に広範囲におよびメソアメリカ文明の土製建築事例が一度に報告されることは今回が世界で初めてのことと思われる。報告内容も考古学だけでなく、保存科学（蛍光X線分析、鉍物分析、水洗分析など）や民族学などさまざまな視点からおこなわれた点も重要であろう。報告者は、2015年から実施しているマヤ南部周縁地域に位置するサン・アンドレス遺跡調査成果に基づき土製建築の長期的変遷過程について報告した。単に土を踏み固めた段階から、精選された素材を用いた泥漆喰や日干しレンガへの発展過程、神殿ピラミッド・住居・広場といった機能別の建築様式の差異・共通点を報告した。さらに都市の中核的建造物である神殿ピラミッド

に用いられた日干しレンガは鋳型で生産され、複数の規格と素材が認められることから、単一集団ではなく、地域内の複数集団による協働建築活動の存在を指摘した。

今回の分科会の成果を要約するとすれば以下の3点である。

第一に、メソアメリカレベルで土製建築に関する報告の精度や用語の定義が不明瞭であるため、議論の素地となる発掘データ報告の統一化を目指すという方向性が掲げられたことである。後述するように土製建築用の材料や技術は多様であり、それを報告する調査者に経験がなければ、詳細な記録が残っていないケースがある。そのため考古学や保存科学の観点から、詳細かつ統一された用語を用いて報告事例を作成し、比較研究の土台を作っていくことの重要性が喚起された。

第二に、単に土製建築とはいえ、各地域の自然環境によって、材質や技術が異なることが明らかになった点である。例えば、海岸地域に近い遺跡では材料に貝が多く含まれる点や、日干しレンガ技術の発生時期や過程が高地や低地では全く異なる点などが挙げられる。材質や技術に関する研究では、保存科学的手法の有効性が顕著に認められるため、学際的

な研究の必要性が指摘された。

第三に、メソアメリカ文明における文化的多様性、権力、経済、宗教、技術といった多岐にわたる領域への発展が期待できることが改めて確認されたことである。土製建築は、石製建築に劣らない高度な知識・技術が必要であり、また建設活動の背後には社会的・経済的・政治的・宗教的要因があると思われるため、これまでメソアメリカ文明の発展過程のダイナミズムをこれまでとは異なる視点で明らかにできる可能性を秘めている。

今後、分科会で報告された内容は、メキシコ国立自治大学人類学研究所出版会から活字化される予定である。また、分科会で再会を果たしたオアハカ地域研究の第一人者A・ジョイス氏(コロラド大学ボルダー校・教授)との交流を深め、都市や国家の起源に関する共同研究の可能性について議論できたことも本派遣の大きな収穫であった。

**この派遣の研究成果等を発表した
著書、論文、報告書の書名・講演題目**

本派遣の研究成果は、今後、分科会座長アニック・ダニールズ氏の編集のもと、メキシコ国立自治大学人類学研究所から出版が予定されている。